

2020年 3月13日(金)

みらいの扉



高等特別支援学校 支援部 第130号

令和元年度を振り返って



1学期は“**学習目標の変更**”をテーマにお話させていただきました。小中学校の時、学力を付けるためにたゆまぬ努力を生徒も保護者の方もしてきたことと思いま

す。“学校＝学力向上のお勉強”と考えがちですが、高等特別支援学校は職業科です。社会に出る前のこの3年間はソーシャルスキルやライフスキルを中心にした、社会の中で生きていく実践的な力を基礎学力の土台の上に作っていくことが大切だというお話をしました。

2学期は“**申し出る力**”を中心にお話させていただきました。お土産のワリカンの話を思い出して下さい。「自分は計算苦手だなあ。」という自己理解があって、「計算は苦手やねん、そこは頼むね。」と言える力は生涯自分を助けるスキルになっていきます。『自己権利擁護（じこけんりようご）』や『セルフアドボカシースキル』という難しい名前が付いた力で、自分に必要なサポートを、自分でまわりの人に説明して、理解してもらおう活動です。例えば「小さい文字が見にくいので、読み上げてほしいのですが。」と弱視の方が申し出る力があれば役場でも銀行でもスムーズです。保護者の方々や、我々教員も将来“老眼”になってこう言う機会があるかもしれません。どなた様にも必要なスキルです。……自分の苦手や弱いところは言いにくい気持ちはもちろん誰にでもあるのですが。

今年度の“未来への扉”の感想や、来年度の「未来への扉」にリクエストがございましたら支援部までお知らせ下さい。一年間ありがとうございました。

I. Y

得意なこと、苦手なこと、その時々に見せる様々な表情等、日々の一緒に過ごす中でいろいろな発見があり、充実した1年になりました。そして日々の学校生活や体育大会、文化祭等の行事、実習を通して成長していく姿を近くで見ることができ、とてもうれしかったです。この1年で学んだこと、成長したこと、難しかったなと感じたことを来年度また新たな気持ちでチャレンジしていきましょう！私も頑張ります！

1年間、本当にありがとうございました

1学年支援部 N. A

はじめて支援部に所属させていただき、1年が終わってホッとしているのが正直な感想です。毎月発行している支援部だより『未来への扉』の作成では、生徒や保護者の方々をはじめ、多くの方が目にされるものですので、少しでも役に立つ情報提供ができないか、保護者のみなさん、生徒、先生方の目線でどんな内容が良いかを考えさせていただき、とてもいい勉強になりました。何事も経験、チャレンジ精神が自分の力になることを改めて実感した1年でした。1年間、ありがとうございました。

2学年支援部 B. N

3年間、支援部でお世話になりました。24期生とともに3年間過ごし、いよいよ卒業という時にコロナウイルスが大流行となり、一瞬にして卒業への行事が中止されていきました。24期生達もきっと思うことは沢山あったと思いますが、誰一人として心乱す事なく、事態を受け入れている姿を見て、この3年間での成長を感じました。色々な複雑な思いはありますが、生徒達は毎日、目には見えない「心」を成長させているのだと実感した3月でした。

3学年支援部 S. A

今年度も『うちの先生』のコーナーを担当しました。

“うちの先生”の知らなかった一面を紹介出来たら嬉しいと思っています。人と人をつなぐこと、これは私がお手伝いできる支援のひとつだと思っており、私自身も取材の時間は“うちの先生”とお近づきになれる貴重なつながれる時間です。先日卒業生が「うちの先生が好きだったんです」「今もHPで読んでいます」などと言ってくれ隠れファンが現れて驚くやら嬉しいやら。卒業してゆく皆さんも進級していくみなさんも、また新しい出会いが待っています。自分なりのペースで1歩ずつ進んでいきましょう。

『うちの先生♪』のレポーター YことY. N

「普通」って何？と考えさせられた支援部での数年間でした。私の思っている普通と、他の人との違いを目の当たりにした時、「そんな風に考えるんだ～」と世界が広がった気がしました。自分が普通に行動したつもりでも、批判を受けたり、周りときどくしゃくすることもありますよね。困ったときはチャンスです。自分の「普通」を疑ってください。

当たり前前の学校生活が突然中断されて2週間、毎日の暮らしが当たり前ではないのだと痛感し、感謝できる日々を送りたいと思います。

支援部 K. A